

議事録

日本学術会議 物理学委員会 IAU 分科会 (第 24 期第 2 回)

日時：2018 年 5 月 8 日 (火) 10:00~11:30

場所：日本学術会議 5 階 5-C (1) 会議室

出席者：林、渡部、山崎、生田、梶田、田近、藤井、須藤、常田、観山、村山、相川、浅井、
岡村、奥村、海部、佐々木、杉山(skype)、新永(skype)、千葉(skype)、山田、深川

欠席：芝井、永原

オブザーバー：國中 均 (宇宙科学研究所)、山岡 均 (国立天文台)

(順不同、敬称略)

以下、(C)は委員からのコメント、(Q)(A)は質疑回答を示す。

0. 追加資料の確認

資料 3：報告事項、審議事項

資料 4：IAU100 年記念事業日本学術会議シンポジウム (180509 案)

資料 5：2019 年国際天文学連合シンポジウムの開催について

1. 前回議事録の確認

第 24 期第 1 回 (2017 年 12 月 28 日開催) 議事録の確認を行った。

2. IAU 新規会員登録状況 (報告)

(1) 新会員の推薦・登録状況

渡部委員長より、新会員の推薦・登録状況について報告があった (資料 3)。条件を満たさない 3 名を除き 40 名を推薦した。ジュニアメンバーへは応募はなかったものの、PhD Prize 受賞の関係で、メール審議を経て 1 名を承認した。また、外国人 1 名については、日本からの登録を強く希望したため推薦することにした。さらに、承認手続きの過程で、個人で応募した 1 名の存在が判明し、ジュニアメンバーとして登録する方向とした。なお、前回分科会以降の調査で、最初の申請国は、後から所属する国は変更できることが判明した。

IAU では、直接、個人からの登録を受け付け、National Members や Division Presidents が推薦するシステムになっている。学術会議分科会での承認後に推薦登録を行うというプロセスを経ない申請が発生してもおかしくない。そこで、日本としてはこれまでの分科会によるスクリーニングを伴うやり方を継続することを確認するとともに、分科会が 10 月改選となることに留意しつつ、今後、個人の登録をどう扱うか検討することとした。

(議論)

C (岡村) : 日本のやり方は確かに特殊だが、実務上、それが最適だからである。

C (観山) : 学術会議は 10 月に改選があるので、時期が合わないと会議を開けない。

C (渡部) : 登録を確認する部分が大変。事前にスクリーニングする方が良い。

(2) ジュニアメンバー

海部委員より、ジュニアメンバーについて現状の説明があった。日本はこれまでジュニアメンバーがおらず、若者を送り込んで活躍してもらうことに消極的だったと言える。IAU には今後ジュニアメンバーの活動を重視する流れがあるため、次回へ向けて早めに議論を始めてはどうかとの提案があった。議論の後、まずはジュニアメンバーの役割と付加価値を、今、明確にすべきであるというレターを、渡部委員長から IAU へ送ることになった。

(議論)

C (山岡) : 毎年推薦することになっており、9 月に決める必要がある。

Q (相川) : ジュニアメンバーの定義は何か。

A (海部) : ポスドクのみである。

Q (浅井) : ジュニアメンバーの期間は、毎年更新するのか。

A (岡村) : 1 期 3 年のみ。次の機会には正規メンバーに推薦される。特別な事情があれば 1 回は更新できる。

C (海部) : ジュニアメンバーは幅が広い。天文学者になるとは限らない。正規メンバーに立候補、推薦しない可能性もある。

C (山岡) : システムの構築が必要である。

3. IAU ウィーン総会について

渡部委員長より、総会に関する日程と周知活動の報告があった (資料 3 の 1-2)。National Representatives について、渡部委員長以外の役割に関しては、委員長と副委員長に人選を任せることになった。また、IAU 役員への立候補の呼びかけ (資料 3 の 1-3)、IAU に登録された電子メールの確認 (資料 3 の 1-4) について、資料に沿って報告があった。

4. IAU 諸活動について

渡部委員長より、以下の報告があった (資料 3)。CAP2018 は CAP 史上最大規模になり、非常に盛況であった。次の日本開催シンポジウムは大阪での IAUS 341 となる。また、日本開催で提案していた IAUS 358 が承認された。このシンポジウムは、IAU の

中でダイバーシティ等の問題を共有するという、従来のシンポジウムの中では極めて異色な内容となっている（資料 5）。今後、学術会議の後援等を申請予定である。

IAU 役員への立候補や Division/Commission Chairs への推薦が少ない問題が、前回の分科会に続いて提起された。教育・普及活動の重要性の認識をどう高めるか、推薦・立候補に対する意識改革をどう進めるかについて、引き続き、議論していくことになった。

（議論）

C（海部）：CAP で分かるように、天文学が社会との接点を広げている。さらに天文学を広めるには、ますます努力が重要である。アジアは遅れている。ぜひ重要性の議論を。

C（岡村）：光赤天連のようなところへ推薦を依頼するのはどうか。

C（海部）：依頼したが反応がなかった。

C（渡部）：IAU の運営に関わる面白さが伝わっていないのではないか。

C（相川）：Focus meeting や division days 等の周知が足りないと思われる。

C（渡部）：様々な催し物についての案内があると良いのかもしれない。

5. IAU 100 周年関連事業について（議題 4）

海部委員より、100 周年記念事業日本学術会議シンポジウムについて提案があった（資料 4）。日本は IAU 創設メンバーであり、IAU 100 年は日本の天文学 100 年である。天文学と社会との関係がますます強まり、決定的要素になると考えられるため、天文学に閉じず、政治行政、教育、メディア等に係る人たちを巻き込みながら行いたいとの主旨説明があった。また、1 日目に「日本社会と天文学」（第 I 部）、2 日目に「世界の中の天文学」（第 II 部）を取り上げるプログラム案が紹介された。第 I 部では、日本の天文学の発展や公開天文台の多さの背景に、社会（アマチュア）の力があつたのではないかとといった側面を取り上げる。第 II 部は、現在の科学成果は扱わず、将来の話として、共同利用と大型望遠鏡、分野を超えた広がり、技術開発や国際共同を扱う。

議論の後、ワーキンググループ（海部、渡部、生田、土居（学会））で意見を咀嚼しながら、内容と日程を具体的に詰めることになった。日程は、土日を基本とし、2019 年の春、連休明けの 5 月か 6 月の予定とした。分科会としては、学術会議の主催とする申請を進めることになった。

（議論）

C（観山）：第 II 部の講演者は、天文の外の、広い分野の人を集めた方が良さだろう。

C（山田）：100 周年を振り返った後、どうしたいかのメッセージをもう少しプログラムに反映させられると良さそうである。

C（観山、渡部）：他の学術領域にどう広がり、どのような展望をもたらすかについてサ

マリートークがあると良いかもしれない。

C (生田) : ターゲットは誰か。会場が学術会議だと若手は来ない。ターゲットと会場のバランスを図ってはどうか。

C (浅井) : SF 作家や漫画家を呼んでも、若手はなかなか来ない。サマリートークよりは、パネルディスカッションの方がおもしろいのではないか。

C (千葉) : 若手に宿題を与え、発表させるということをやると良いのではないか。

C (海部) : 対象として一般の人はあまり想定していない。天文学が社会に及ぼし得る影響を明確にしたい。若い人に来てもらうのは良いアイデアだ。I 部も II 部も、ブレインストーミングを考えてはどうか。データ、分析、判断を持ち寄ってたたき合うことで、内容のあるシンポジウムにしたい。

6. その他

- 山岡氏より、日本天文学会ジュニアセッションの後援が承認された旨、報告があった。日本天文学会全国同時七夕講演会は、未承認である。
- IAUS 358 について、学術会議の後援の申請を行うことが了承された。
- 次回の分科会

2018 年 9 月 18 日(火) 天文学・宇宙物理学分科会と同時開催

以上